

子どもの本だな 18

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

くいしんぼうのはなこさん

いしい ももこ ぶん なかたに ちよこ え

(福音館書店)

子牛のはなこは、お百姓さんのところでごちそうばかり食べてむくむく大きくなりました。春になり牧場に行くと、ちゃんばらでほかの子牛たちを負かし、一番強い女王になりました。ある日はなこは、おいもとかぼちゃをひとりじめして食べ、アドバルーンのようにばんばんに膨らんでしまいます。獣医さんがはなこのお腹に注射針を刺すと、「すすすすす…」とガスが抜け、元のはなこに戻りました。それからはなこは欲張ったり威張ったりしない大人しい子牛になりました。

わがままですがどこか憎めないはなこの姿に笑ったり、破裂しそうなお腹と大きな注射針にはらはらします。ユーモアあふれる文章と色彩豊かな絵が良く合い、のんびりとした優しい雰囲気と安心感が得られます。読んでもらえば4歳くらいから。

(池之上)

オタバリの少年探偵たち

セシル・デイ・ルイス作 瀬田貞二訳

(岩波少年文庫)

昼休み、戦争ごっこの最中にニックの蹴ったボールが校舎の窓ガラスを割りました。ガラス代を払うため、仲間で合唱隊や大道芸でもらったお金、靴磨きや窓磨きで儲けたお金、そして自分たちのこづかいを集めます。お金は木箱に入れニックが家に持ち帰りました。ところが翌日、木箱を開けるとガラクタばかり。木箱がすり替えられたと考えた少年たちは探偵をはじめます。この足跡はだれのものか、木箱は誰が持ってきたのか、あの大人は雨降りでもないのになぜカッパを着ていたのかなど次々探っていきます。そして二人の大人を犯人だと思いつきとめますが、彼らは贖金づくりや闇市に関わっていたのです。

仲間で事件を解決していく少年たちの推理力と行動力にハラハラしながらも満足する物語です。

(西村)

4月	5月	4月・5月の移動図書館(いずれも木曜日です)				
9日	14日	塚森 地域内 10:30~10:50	沖代 地域内 11:00~11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
16日	21日	岩見構下 公民館 10:30~10:50	岩見構上 公会堂 11:00~11:20	原池団地 公民館 15:00~15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
23日	28日	広坂 公民館 10:30~10:50	上太田 公民館 11:00~11:20		吉福 公民館 15:30~15:50	太子 ニュータウン 公民館 16:00~16:30

お知らせ

「青空リサイクル」

図書館で不用になった本を無料で提供します。持ち帰り用の袋はご持参ください。

4月26日(日)

10時30分~15時

場所：図書館南側テラス
リサイクル用の本は、随時補充します。

雨天の場合は5月3日に延期。

『カンボジアに村をつかった日本人』

森本喜久男 著

白水社 297頁 2015年2月刊 1,900円 (請求記号) 586.4

本書は、難民支援のためタイに渡った友禅職人が、カンボジアに伝統的絹織物復興を目指す村をつくるに至るまでを綴ったもの。

一九九四年、ユネスコの調査に携わった著者は、カンボジアでの養蚕や織物の伝統が消えかけていることを知った。NGOを立ち上げ、まず、各地の村々を訪ね、緋の織り手、緋柄をつくるための糸芭蕉の紐、織り機や箆(おさ) つくりなど緋織りに必要な技術を持つ人々を探し出した。化学染料が一般的になった現場で植物による自然染色に取り組みつつ、図案などないカンボジアの緋を、古布と織り手の技術をたよりに復元していった。数年後には、熟練の織り手のもつ技術を次の世代に引き渡すため、工房を開き、有給の研修生を受け入れ始めた。やってくる多くの女性は生活に困窮していた。織物活性化はそれを担う女性の生活安定があつてこそと、女性自立支援も担うようになる。さらに、伝統の織物再生には、織物を支える自然環境の再生が必要という考えにいたる。蚕の食べる桑、藍、スオウ、ベニノキなど染料となる植物の栽培、見事な赤を生み出すラックカイガラムシが繁殖できる環境・・・森をつくろう。やつと手に入れた約五ヘクタールの荒地の開墾が始まった。自然染色に欠かせない樹木の苗二〇〇〇本の移植。小屋を建て、井戸を掘り、畑を耕す。研修生も移り住んだ。

現在、二三ヘクタール(東京ドーム四倍半)になった土地には、一五〇人が暮らし、内戦で絶えかけていた絹織物に取り組んでいる。土を肥やし植物を育てる。蚕を飼い、繭から糸を引き、植物で糸を染める。村の男性が作った道具で布を織る。技術の復興だけでなく布に向き合う心を育てようとする著者と織り手たちがつくりだす緋がどのようなものか見てみたい。

(竹内)

日曜日の絵本の時間

4月19日
5月17日
おはなしの部屋
11:00~
2~3歳の子どもと保護者

カレンダーの×印は休館日です。
開館は10時~18時まで。
金曜日は20時まで開館しています。

4月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	×	×	8	9	10	11
12	13	×	15	16	17	18
19	×	×	22	23	24	25
26	27	×	29	×	館内整理日 返却のみ受付	

5月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	×	×	7	8	9
10	11	×	×	13	14	15
17	×	×	×	20	21	22
24	25	×	×	27	28	29
30	31					

地下水

新刊書の受入と除籍図書の見別に頭を悩ませていた三月の中旬、山歩きに連れて行ってもらった。軽トラックがやっと通れるほどの道を歩きながら、手入れの行き届いた林に目をやると、木々の間から早春の光が差し込み山の中が明るく見える。枯葉ですべりそうな斜面を登り山頂についた。弁当をほおぼり、ふもとの田畑や町を見ていると、いも虫みたいな電車が一两走って行った。

図書館の仕事も山の仕事に似ている。古くなった本を抜き取り、生まれた空間に新しい本を並べると、新鮮な血液が通うように書架が息をふきかえす。見なれた棚が輝いて見える。これからも利用者の方たちの要望をふまえて、新刊の充実につとめ、新鮮な書架を作っていこう。

(片木)

